

白 い ま ど

February 2018年 2月1日発行 No.452

2

特集 わが街で健康に暮らす 6 健康に格差？ P-1



- インフォメーション P-4
- 診療科・センター紹介 小児神経科 P-5
- 診療を支えるスペシャリスト 脳波検査技師 P-6

病院理念 私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

超高齢社会になった今では、地域で暮らす一人一人が健康意識を持つ必要があります。このシリーズでは、毎回健康に関するキーワードを取り上げ、住んでいるこの場所で健康に暮らすための方法を、一緒に考えていきます。

▶ 健康格差

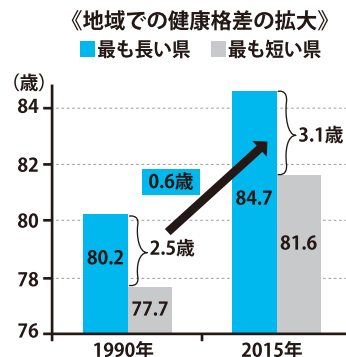
以前※に述べたように、住む場所は健康へ影響します。居住地域だけでなく、所得、教育、職業や職位など、社会的背景が異なるグループでも、健康状態が異なっています。異なる背景により健康状態に違いがあることを、「健康格差」と呼んでいます。たとえば、男性は女性に比べて平均寿命が短いことも、異なるグループでの「健康格差」です。また、医師は平均寿命が一般より5歳くらい低いことが分かっており、これも職業による「健康格差」です。

※わが街で健康に暮らす2「なぜ、浜松市は健康寿命が長いのか？」
(広報誌「白いまど」2016年10月号参照)

▶ 健康格差は、拡大しているのか？

歴史的に社会格差がある欧米では、「格差の健康

への影響」に対して、古くから研究が進められていました。近年、「格差が小さい」と言われていた日本でも健康格差の存在が明らかになってきました。最近の研究で、地域間の健康格差の拡大が指摘されています。日本の平均寿命は、ここ25年間で4.2歳伸びています。1990年に最も平均寿命が長い長野県(80.2歳)と短い青森県(77.7歳)の差は2.5歳でしたが、2015年には最も長い滋賀県(84.7歳)と最も短い青森県(81.6歳)の差は3.1歳でした。25年間で差は0.6歳広がっていました。



▶ 日本における健康格差の現状

欧米諸国で健康格差の把握が進んだのは、1980年代からです。日本でも2000年代から健康格差の把握が開始されました。それらの研究から、日本特有の傾向があることも分ってきました。

最近、日本では貧困問題がニュースになっていますが、実は「所得による健康格差」は拡大していないか、むしろ縮小している可能性があるようです。

さらに、「失われた20年」で職業間の死亡率の格差は縮小した可能性があります。それまでは、肉体労働者などのグループの死亡率が高い傾向でしたが、1995年を境に、専門職・管理職の死亡率が上昇しています。2000年代以降のデータでは、管理職において、飲酒、過体重、血清脂質の値などの指標が、良くない傾向を示しています。

その格差は、縮小すべきか？

世界的に健康格差の是正は必要とされているようです。WHO（世界保健機構）は「健康格差」を生じる要因として、所得、地域、雇用、家族が背景にあると指摘し、「健康格差」を解消するよう各国に対策を求めています。また、厚生労働省も健康日本21（第2次）で、「都道府県の健康寿命格差の縮小」を目標にしています。

当然ですが、すべての格差に是正する方策をとることは困難です。複雑化した現代において、格差はどんな健康指標にも必ず存在します。まだ、日本では健康格差の研究が始まったばかりです。「健康格差対策」という新しいアプローチで、何ができるのかは今後の課題です。

文責：総合診療内科 主任医長 本間 陽一郎

次回、わが街で健康に暮らす7は「シェアード・ディジョンメイキング」です。

インフォメーション

イベント情報

《第4回》がんに関する市民公開講座

しきゅうけい
テーマ：学ぼう！子宮頸がん

参加無料
申込不要

●日 時 …… 2018年2月24日（土） 13:00～14:50

●場 所 …… 大会議室（医局管理棟B1階）

●問い合わせ …… がん診療支援センター

TEL 053-474-2614（平日8:30～17:00）

FAX 053-474-2615

※詳細は病院ホームページをご覧ください

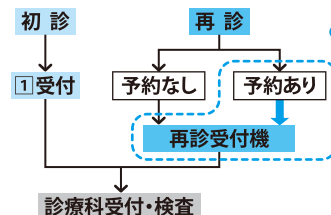


予告 コンピューターシステムの更新に伴い、

2018年5月7日から 再診の受付方法が変わります

ご来院されたら、新しく設置する「再診受付機」での手続きが必要になります。

2018年5月7日からの外来受診の流れ



ココが変わります！

*詳しくは、白いまど5月号、院内掲示、病院ホームページで随時、ご案内していきます。ご不明な点がございましたら①受付までお問い合わせください。

新任 医師紹介



小児外科
やまだ すずむ
山田 進
帝京大学
（2012年卒）

小児神経科



てんかん発作ゼロを目指して 治療を工夫

小児神経科は子どもの神経系の病気をみる診療科です。特に「けいれん」を主体に担当しており、てんかんセンター内に専門外来を設けています。最近は診断技術が劇的に進歩し、新しい薬も次々と承認されており、昔にくらべて治療成績は向上しています。子どものてんかんは治る率が高いのですが、なかなか改善しない場合には、「てんかん科」と連携し、てんかん外科治療にも力を入れています。

てんかんは100人に1人の病気で、けっして稀ではありません。「てんかんかどうかわからない」「なかなか発作が止まらない」「日常生活の注意点」など、何なりとご相談ください。発作ゼロを目指していきましょう。

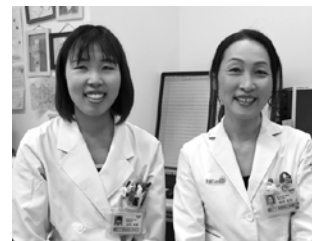
文責：小児神経科 部長 榎 日出夫(写真前列中央)

さらに詳しい情報などを、YouTubeの
「聖隷浜松病院チャンネル「白いまど」」で配信しています。

診療を支える
スペシャリスト

脳波検査技師

てんかんの
脳波検査なら
おまかせください！



脳波検査技師は、てんかんなどの脳波を解析する仕事をしています。てんかんの発作時は脳が過剰に活動するため、脳波に発作波がみられます。また発作が起きていないときにも脳波にてんかん特有の波形が出ています。数日間記録した脳波の波形を脳波検査技師が読みとり、脳のどこで発作が起きているのかを調べます。この結果をもとに、「どんな種類のてんかんか」「薬は合っているか」「手術ができるか」「どんな手術をするか」などを、てんかんセンターの医師と一緒に検討しています。私たちはすべてのてんかん患者さんの

明るい未来に向けて、チーム一丸となつててんかん診療に取り組んでいます。

脳波検査や不安なことなど、何でもお気軽にご相談ください。



文責：臨床検査部 西村 光代(写真上右)、直田 健太郎



聖隷浜松病院からのお知らせ

初診の方へ 紹介状をお持ちください

紹介状及び予約が必要な診療科(紹介予約制)がありますので、事前にご確認ください。なお、当院を受診される際に、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合は、初診に係る**選定療養費**として**5,400円(税込)**を別途ご負担いただいています。

また予約時には、原則としてかかりつけ医からご予約をお取りいただくようお願いいたします。

やむを得ず患者さんから予約する場合は診療科・担当医をご確認のうえ、下記までご連絡ください。

▶ **地域医療連絡室(JUNC)** ☎053-474-8801

(月～金曜 9:00～17:00・土曜 9:00～12:00／祝祭日を除く)

再診の方へ 予約変更のご案内

予約変更は、適切な診療提供に支障をきたすおそれがあります。やむを得ず予約変更を希望する場合のみ、下記までご連絡をお願いいたします。

- お手元に診察券・予約券等をご準備ください。
- 時間帯によってはお電話につながりにくい場合があります。
- 変更の際は医師等に確認が必要なため、お時間や日数がかかります。

▶ **外来受付センター** ☎053-474-0100 (月～金曜9:00～16:45)

面会の方へ

面会時間…(月～土曜)14:00～20:00、(日曜・祝日)10:00～20:00

- 小児科病棟の面会者はC棟1階で手続きをお願いいたします。
- 院内感染予防の目的で、以下の症状がある方には、面会をご遠慮いただいています。
発熱／咳・痰／原因不明の発疹／嘔吐・下痢

ご来院の方へ

駐車場の収容台数に限りがあり、大変混み合いますのでなるべく公共交通機関(電車・バス)をご利用ください。

医師との面談時間について(ご協力のお願い)

原則、平日(月～金曜)8:30～17:00です。

- 緊急の場合は、この限りではありません。
- 医師の都合(外来診療や手術の延長等)により面談が上記時間外になる場合もありますが、ご了承ください。
- やむを得ない事情がある場合は、ご相談ください。



ジョイント・コミッション・インターナショナル認証
日本医療機能評価機構認定
地域医療支援病院



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 ☎053-474-2222

発行責任者 院長 鳥居 裕一